



第34回日本エイズ学会学術集会・総会  
共催セミナー9

# HIV/AIDS領域における ジェネリック医薬品の役割

～求められる医療費抑制とジェネリック  
医薬品への期待～

日時

2020年

11月28日(土) 13:30-14:20

WEB開催

座長

栗原 健 先生

一般社団法人 日本病院薬剤師会  
専務理事

演者

岡 慎一 先生

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター  
エイズ治療・研究開発センター センター長

増田 純一 先生

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院  
薬剤部 副薬剤部長

共催：第34回日本エイズ学会学術集会・総会  
共和薬品工業株式会社

# HIV/AIDS領域における ジェネリック医薬品の役割

## ～求められる医療費抑制とジェネリック医薬品への期待～

ジェネリック医薬品は、新薬の再審査終了及び特許期間の満了後、厚生労働省の承認を受けて製造発売される安価な医薬品であり、新薬と同一の有効成分を同一量含有し、同一経路から投与され、基本的に同一の用法・用量、同一の効能・効果を有する医薬品です。欧米では一般名（generic name）で処方されることから、ジェネリック医薬品と呼ばれています。ジェネリック医薬品を普及させることは、患者負担の軽減や医療費の抑制に資するものと考えます。2017年6月の閣議決定において、「2020年9月までに、後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早期に達成できるよう、更なる使用促進策を検討する。」と定められました。2019年度第4四半期の使用割合は78.5%と報告されています。本セッションは「HIV/AIDS領域におけるジェネリック医薬品の役割～求められる医療費抑制とジェネリック医薬品への期待～」と題し、座長である日本病院薬剤師会専務理事の栗原健先生からジェネリック医薬品についてオーバービューを行っていただいた後、国立研究開発法人国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター長の岡慎一先生から、抗HIV薬を含めたジェネリック医薬品に関する先生の考え方や、患者さんなどの反応についてお話しいただき、国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院副薬剤部長の増田純一先生からは、薬剤師の立場から抗HIV薬も含めたジェネリック医薬品に対する取り込みや、現在の課題についてご講演いただきます。高騰する医療費に対して、ジェネリック医薬品に求められる役割や期待について、参加者の皆様と議論を深めたいと思います。